

旅行鞆の音から始まる縁

ガラガラッ。旅行鞆（たづな）の音が工房の前で止まった。

旅行や出張の方が、鳥取駅前
に私たちが構える「万年筆博
士」のショーウィンドーをご覧
になり珍しそうに入っているら
しやる。よくあるケースだ。

5人ほど入っていらっしやる
と、早速「万年筆を注文したい
のですが」「以前より鳥取に来
た際にはと思っておりまして」
と気持ちがお決まりのご様子。
次々に皆様の書き癖を診させて
いただいた。

「つのだ様ですか？」と聞く
と「かくたと申します」と。



でも早書きだが柔らかな表情の
文字だ。

「随分と文章を書きなれた感
じですね」と聞くと「恥ずかし
いのですが、もの書きの端くれ
です」と。そんなやり取りが
あった。

この度はお仕事で鳥取にいら
っしゃったのですかと尋ねる
と、鳥取についての取材で来た
のです。と。直木賞作家の角田
光代先生と新潮社の編集長さん
をはじめスタッフの方々だった
のである。

深々とお辞儀をしてお見送り
した後、斜め前の本屋に走っ

万年筆職人

山本 竜さん (46) ①

た。有名な先生のようなだが、
その本屋にあるだろうか、な
んてことは、杞憂だった。角
田先生のコーナーが一番目立
つところにあっただけだ。数冊
買ってすぐに読破した。まった
く恥ずかしいのは私の方であ
る。

実は、同じようなことが過去
にもあった。芥川賞作家の宮本
輝先生の時も、斜め前の本屋に
走って、先生のコーナーの大き
さに驚き、本屋の本棚に思わず
一礼したものだ。

約1年半後、角田先生へ万年
筆を納品。その後、先生は神奈
川近代文学館の「作家と万年
筆」展で、夏目漱石や江戸川
乱歩の直筆原稿や万年筆とと

もに角田光代のものとして、
当社製の万年筆をお披露目し
てくださった。また、万年筆
の注文から出来上がりまでの
心境をエッセー集「世界中で
迷子になって」の「なぜか言
い訳」で紹介してくださっ
た。

たった1本の万年筆を通し
て、こんなに出来事やドラマが
生まれるものだろうか、いつ
も不思議に思う。万年筆とは実
に不思議なアイテムだ。その不
思議な力で私の恥ずかしい対応
すら許されてきたように感じ
る。

私の下手な字や文章でも手書
きのおたよりに書いてみると、
心が豊かになるコミュニケーション
ヨンがとれるように思う。

ガラガラッと旅行鞆の音が工
房の前で止まると、今日はどん
な素敵な出会いがあるのだろ
う、と楽しみになる。

やまもと・りょう 1974年生まれ。2008年から鳥取市にあ
る有限会社万年筆博士の代表取締役。顧客の書き癖に合わせたカスタ
ムメイド万年筆を製作している。納品まで約1年かかるが、世界中か
ら愛好家の注文が集まる。